



## ご挨拶

本日は“*A-Winds*33”2011年 春の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「一人ひとりが創り出す町、歴史と文化が暮らしの中に息づく斑鳩の里」の歴史文化交歓の場“いかるがホール”で皆様方にこうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds* 団員一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上にと位置付けた“ウインドオーケストラ”と称し大人数の編成にて、平城遷都1300年の歴史を誇る古都、奈良の都に発足しました。同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催し、以後四季折々に開催する、*A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして創立11周年を数え、第33回目の演奏会を迎えることができました。これも我々 *A-Winds* の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と団を代表しまして心より厚く御礼申し上げます。演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが「主人公」ということと吹奏楽本来の特徴を最大限に引き出す、吹奏楽オリジナル作品を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも、音楽表現の研究に作曲家の方々を実際に合奏練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み活動を続けております。

今回は、世界を舞台に活躍されている新進気鋭の若手指揮者、高谷光信さんを客演指揮者にお招きし、優雅で華麗なるタクトさばきの元、指揮者と舞台と客席が一体となったこの音楽が、いつまでも皆様の心の中で鳴り響き遙か遠く先の歴史の一頁になればと願いを込め、今日の思いを一句詠ませいただきます。

一振りの 魔法にかかる *A-Winds* ♪

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

*A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

\*

本日は“*A-Winds*33”2011年 春の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今回は、副題を「Romantic Concert ♪」とし、春らしい華やかなプログラムをご用意いたしました。

躍動的で華やかな「キャンディード序曲」で幕開けし、2部では木管・金管・打楽器よりクラリネット・トランペット・鍵盤楽器をフィーチャーし、聴くだけではなく観て楽しいステージ。そして3部では新進気鋭の若手指揮者 高谷光信氏を迎え新しい *A-Winds* サウンドをお届けします。

ひとつの出会いから新しいサウンドが生まれ、そして新しいサウンドが本日お越しいただいたお客様と出会う。この出会いに感謝し団員一同、心を込めて演奏いたします。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さいませ。

最後になりましたが、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました皆様、また高谷氏との貴重な出会いを作って下さった平井企画局長に演奏会実行委員を代表しまして心より御礼申し上げます。

“*A-Winds*33” 2011年 春の演奏会 実行委員長 川本理恵



## ご案内

### “*A-Winds*34” 2011年 夏の演奏会

2011年6月26日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール大ホール

“*A-Winds*34” 2011年 夏の演奏会では「生きる音を楽しむ～Time Remembered～」と題し、団員それぞれの想い出の吹奏楽曲にスポットを当ててみました。

初めて手にした吹奏楽曲、初めて経験した吹奏楽コンクールの課題曲や自由曲、想い出に残る懐かしい曲の中からセレクトしたプログラムとなっております。

懐かしい曲を *A-Winds* のサウンドでお楽しみ下さい!!

“*A-Winds*34” 2011年 夏の演奏会 実行委員長 佐藤 司



## *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo	佐藤 由加里
Flute	佐藤 司♪ 魚谷 陽子 浅野 美音♪
Oboe	深沢 亮子 篠藤 文子☆
E♭ Clarinet	長尾 恭子
B♭ Clarinet	竹村 明恵 森本 幸恵 後藤 咲妃 上野 彩香 八木 望 芳倉 宏文 野島 佳織 日野上昌里佳 近藤 晴美
Alto Clarinet	大西 晴己
Bass Clarinet	辻田 綾子
Bassoon	満江 孝文 萱原 美華子
Saxophone	鳥田 博一 初岡 和樹 宮本 祐輔 三宅 利幸
Horn	久野 耕三 次田 哲平 小林 計昭♪ 大田 雅美 山中 美咲

Trumpet	魚谷 昌克 表 恭子 篠木 章江 竹腰 綾香 市原 満 三方 裕司☆
Trombone	萱原 淳嘉 小泉 文浩 鈴木 恵子 上野 遼太
Euphonium	大西 善郎 藤村 晃世◇ 堀部 幸基☆
Tuba	楠 陽介♪ 岸本 和
St. Bass	椎村 亮太
Percussion	平井 晶 谷口 麻子◇ 久保 寛美♪ 川本 理恵 松嶋 春香◇ 高林 美樹 関 雅樹☆ 小野 歩☆
Piano	八木 真木
Stage Manager	河津 雅之

団員=50名  
◇=休団  
☆=エキストラ  
♪=*A-Winds*33実行委員



## *A-Winds* メンバー募集

- 募集パート
    - ・オーボエ (イングリッシュホルン)
    - ・チューバ
    - ・コントラバス
    - ・クラリネット
    - ・トロンボーン
  - 各1名
  - 各2名
  - A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
  - ご自分で楽器を準備できる方
  - 全ての活動に賛同頂ける方
  - 18歳以上の方
  - 詳細はお問い合わせ下さい。
- 問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp

2011年3月21日(祝・月) 13:30開場/14:00開演  
いかるがホール大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ  
後援 ● 奈良県・斑鳩町・斑鳩町教育委員会・大和郡山市・  
大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



## プログラム

### ◇第1部 ―――― 団員指揮者：魚谷昌克

### 「キャンディード」序曲

### Overture To “CANDIDE”

作曲：レナード・バーンスタイン／Leonard Bernstein

編曲：Clare Grundman

出版：The Estate of Leonard Bernstein

## イーストコーストの風景

### East Coast Pictures

1 楽章：シェルターアイランド／Shelter Island

2 楽章：キャッツキル山脈／The Catskills

3 楽章：ニューヨーク／New York

作曲：ナイジェル・ヘス／Nigel Hess

出版：Faber Music

### ◇第2部 ―――― 団員指揮者：魚谷昌克

### クラリネット・キャンディ

### Clarinet Candy

作曲：ルロイ・アンダーソン／Leroy Anderson

出版：Woodbury Music Company

## トランペット吹きの日

### Bugler’s Holiday

作曲：ルロイ・アンダーソン／Leroy Anderson

出版：EMI Mills Music

## フィドル・ファドル

### Fiddle-Fiddle

作曲：ルロイ・アンダーソン／Leroy Anderson

出版：EMI Mills Music

### ◇第3部 ―――― 客演指揮者：高谷光信

### エル・カミーノ・レアル

### EL CAMINO REAL (A Latin Fantasy)

作曲：アルフレッド・リード／Alfred Reed

出版：Piedmont Music Company

## 交響的情景「地底旅行」

### Journey to the Centre of the Earth

作曲：ピーター・グレアム／Peter Graham

出版：Gramercy Music



## プログラムノート

#### 「キャンディード」序曲／レナード・バーンスタイン(1918-1990)

この曲は、1956年にブロードウェイで初演されたミュージカル「キャンディード」の序曲です。フランスの作家ヴォルテールの原作に基づくこのミュージカルは、楽天主義の青年キャンディードが、恋人を取り戻すための世界を股にかけた旅の中で、戦争、大地震、船の沈没など様々な苦難を経験し、最終的に日常の生活の中にささやかな幸福を見出す、という物語です。

上演に先立って演奏されるこの序曲は、波瀾万丈なストーリーにふさわしく沸き立つように躍動的で、舞台幕開けへの期待感が高まります。

#### イーストコーストの風景／ナイジェル・ヘス(1953- )

作曲者のナイジェル・ヘスは、日本では吹奏楽の作曲家として知られていますが、本国のイギリスでは、TV番組のテーマ音楽の作曲家として絶大な人気を誇っています。

この作品は、彼がアメリカのイーストコースト(大西洋沿岸地域)を訪れた際に、その土地や人々から受けた数々の印象のうち、3つの風景を音楽にしたものです。

第1楽章；シェルターアイランド

ニューヨークから東へ車で3時間ほどのところにあるシェルターアイランドは、夏はニューヨーク市民の避暑地として大変賑わいますが、冬になると大西洋の厳しい気候にさらされ、人影は全くなくなってしまいます。この楽章は、この島のある冬の週末の風景を描いています。

第2楽章；キャッツキル山脈

ニューヨークの北方にあるキャッツキル山脈は、自然にあふれたなだらかな丘陵地帯で、ニューヨーク市民の保養地になっています。この楽章は、この山脈の静けさ、穏やかさの中にある威厳を描いています。

第3楽章；ニューヨーク

ニューヨークの中心部マンハッタンは、摩天楼がそびえ立ち、光と音が交差し、そして人々のエネルギー、刺激、自由にあふれた世界中の若者の憧れの街です。この楽章は、この24時間絶え間なく鼓動を続ける大都会マンハッタンの喧噪を描いています。

#### ルロイ・アンダーソン(1908-1975)

1908年、アメリカ合衆国のマサチューセッツ州生まれのルロイ・アンダーソンは、ハーヴァード大学で作曲を学び、卒業後はバンドリーダーやプレーヤーとして活動していました。その後、言語学の研究員として大学に戻り、作曲家として自立する前は言語学者でもありました。

そして1938年、ボストン・ポップス・オーケストラとその指揮者アーサー・フィードラーとの出会いが、彼が作曲家へと転向するきっかけとなりました。

アンダーソンの作品は、クラシック音楽でもポピュラー音楽でもないライト・クラシックというジャンルに分類され、また彼独特の親しみやすい作風から、愛好家の間では“ルロイ・アンダーソン・ミュージック”と称されています。作品の多くはコンサートのアンコールとして、またはファミリーコンサートの目玉として世界的な人気を誇っています。

#### クラリネット・キャンディ(1962)

曲名の通り、クラリネット・セクションが大活躍する曲です。キャンディとはお菓子のキャンディのことで、食べる前のウキウキ感を表しています。

#### トランペット吹きの日(1954)

曲名とは裏腹に、3本のトランペットが大活躍する曲です。陽気で活気に満ちたギャロップで、運動会のBGMには欠かせません。

#### フィドル・ファドル(1947)

フィドルとはヴァイオリンのくだけた呼び方で、フィドル・ファドルとは「くだらないことに大騒ぎする」という意味です。本日の演奏ではヴァイオリンに代わって鍵盤打楽器が大騒ぎします。

#### エル・カミーノ・レアル／アルフレッド・リード(1921-2005)

“エル・カミーノ・レアル”とは、アメリカ合衆国のカリフォルニア州を南北に縦断する大きな国道の別名で、スペイン語で「王の道」という意味です。カリフォルニアには、18世紀後

半から19世紀初めにかけて、当時スペインに支配されていた南隣のメキシコから、聖フランシスコ修道会の修道士たちが布教活動のために進出してきました。修道士たちは、道沿いに修道院を建設しながら北へ北へと進んで行きました。この、彼らが布教進出のために通った道が、“エル・カミーノ・レアル”なのです。

この作品は、アメリカ第581空軍バンドの委嘱で1984年に作曲されました。サブタイトルに「ラテン・ファンタジー」とあるように、全曲を通してスペインの舞曲を素材としています。

#### 交響的情景「地底旅行」／ピーター・グレアム(1958- )

この作品は、フランスの作家ジュール・ヴェルヌの同名のSF冒険小説からインスピレーションを得て作曲されました。オリジナルは、2005年にイングランドの名門ブラック・ダイク・バンドの委嘱により作曲されたブラスバンド編成の作品で、翌年に大阪市音楽団の委嘱により、この吹奏楽版が完成しました。

原作の小説は、鉱物学の世界的権威であるオットー・リーデンプロック教授の甥アクセルの日記という形で書かれています。また音楽は、闇夜のスネップフェルス山頂のシーンから始まり、この「日記」の時系列に添って描かれています。

《骨董店で購入した古文書の中に、16世紀のアイスランドの著名な錬金術師が書き残した暗号を偶然見つけたリーデンプロック教授は、「わたし(アクセル)」とその解読を試みた。そこには、『アイスランドのスネップフェルス山の頂にある火口の中を降りていけば、地球の中心にたどり着くことができる』と記されており、その暗号に従ってさっそくアイスランドに渡り、現地で雇ったガイドのハンスとともに、死火山スネップフェルスの火口を下っていった。

途中「わたし」が2人とはぐれてしまうトラブルがあるものの、数十日かけて地球の中心部である大空洞に到達する。そこはオーロラのような電気現象で照らされていて、海があり、キノコの森が繁茂し、地上では絶滅したはずの古生物たちが闊歩していた。

そして地底の海を航海の末、さらに下へ進むトンネルを発見するが、その奥は崩れた岩で塞がれていた。道を開くべくその岩を爆破するが、その衝撃で生じた激流に吞まれ、活火山の火道に紛れ込んでしまう。しかし自分たちがマグマとともに上昇中であると気づき、そのままストロンボリ島の火山噴火に乗じて無事に地上に生還することができたのです。》



撮影／大森教雄

京都市立堀川高等学校音楽科(現・京都市立京都堀川音楽高等学校)を経て大阪音楽大学音楽学部器楽学科卒業、キエフ国立チャイコフスキー音楽院指揮科首席卒業。指揮を小松一彦、伊吹新一、田中良和、藏野雅彦、V.プランロフ、E.ドゥーシェンコ、N.スーカッチの各氏に師事。

キエフ国立チャイコフスキー音楽院卒業時、ウクライナ・チェルニーゴフフィルハーモニー交響楽団に客演指揮者として招かれ、ウクライナにてプロデビュー。楽団員の大きな支持により首席客演指揮者に就任する。その後も共演を続け、第2指揮者に就任。現在も定期演奏会や各国の音楽祭などで共演を続けている。

日本国内においても、現在までにブラソパラダイス大阪、大阪交響楽団(旧大阪シンフォニカー交響楽団)、セントラル愛知交響楽団、テレマン室内オーケストラ、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、東京室内オーケストラ、エウフォニカ管弦楽団、神戸市内合奏団、大阪センチュリー交響楽団ユースオーケストラ、東京混声合唱団など、数多くのオーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮。またオペラやバレエの分野でも注目を浴び、テレビやラジオ等にも多数出演している。

2011年7月ウクライナフィルハーモニー指揮マスターコースにおいて講師を務めることが決まっている。

第16回京都芸術祭京都市長賞受賞。

武庫川女子大学音楽学部非常勤講師。
仁愛女子短期大学音楽学科非常勤講師。
京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会非常勤講師。
現在、ウクライナ・チェルニーゴフフィルハーモニー交響楽団　第2指揮者。
今後の活躍が期待される新進気鋭の若手指揮者である。
オフィシャルホームページ　http://m-takaya.com/